

”地の利”の国・ニッポン 地域と農業の未来

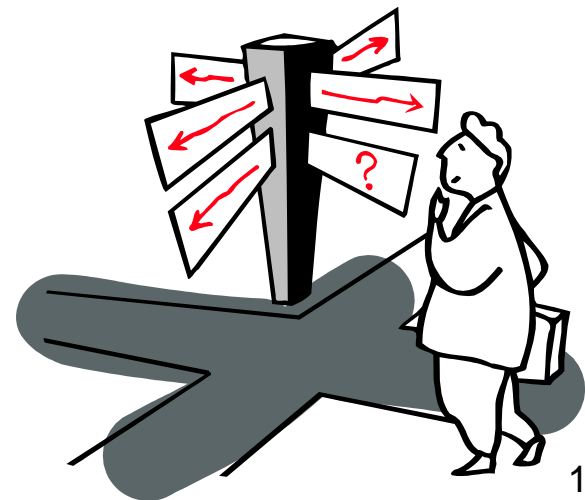
2019年10月31日

株式会社 日本総合研究所 主席研究員

株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに
藻谷浩介

kosuke@motani.com



日本シリーズ優勝球団の推移

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
優勝	東京	東京	東京	福岡	埼玉	千葉	札幌	名古屋	埼玉	東京
準優勝	福岡	大阪	埼玉	大阪	名古屋	大阪	名古屋	札幌	東京	札幌

首都圏

札幌
広島
福岡

農業とは:

太陽エネルギーを使って

← 今の太陽エネルギー(流水、風含む)

← 過去の太陽エネルギー(化石燃料)

(食用)生物を育てる産業

← 同じ規格、サイズの大量の生き物

← 個性を持って育った健康な生き物

日本農業は“産業”といえるか？

？ この程度の売り上げしかないのか？

！ 農業産出額：9兆円超：トヨタ(単独決算)の8割

！ 農家一戸あたり：売上400万円・所得150万円

？ 雇用創出先として重要か？

！ 農業の雇用は国民の2%、就業者の4%

！ 製造業や小売業の4分の1、医療福祉業の半分

？ 土地利用法としてどうか？

！ 国土の12%、可住地だと36%を占めているが...

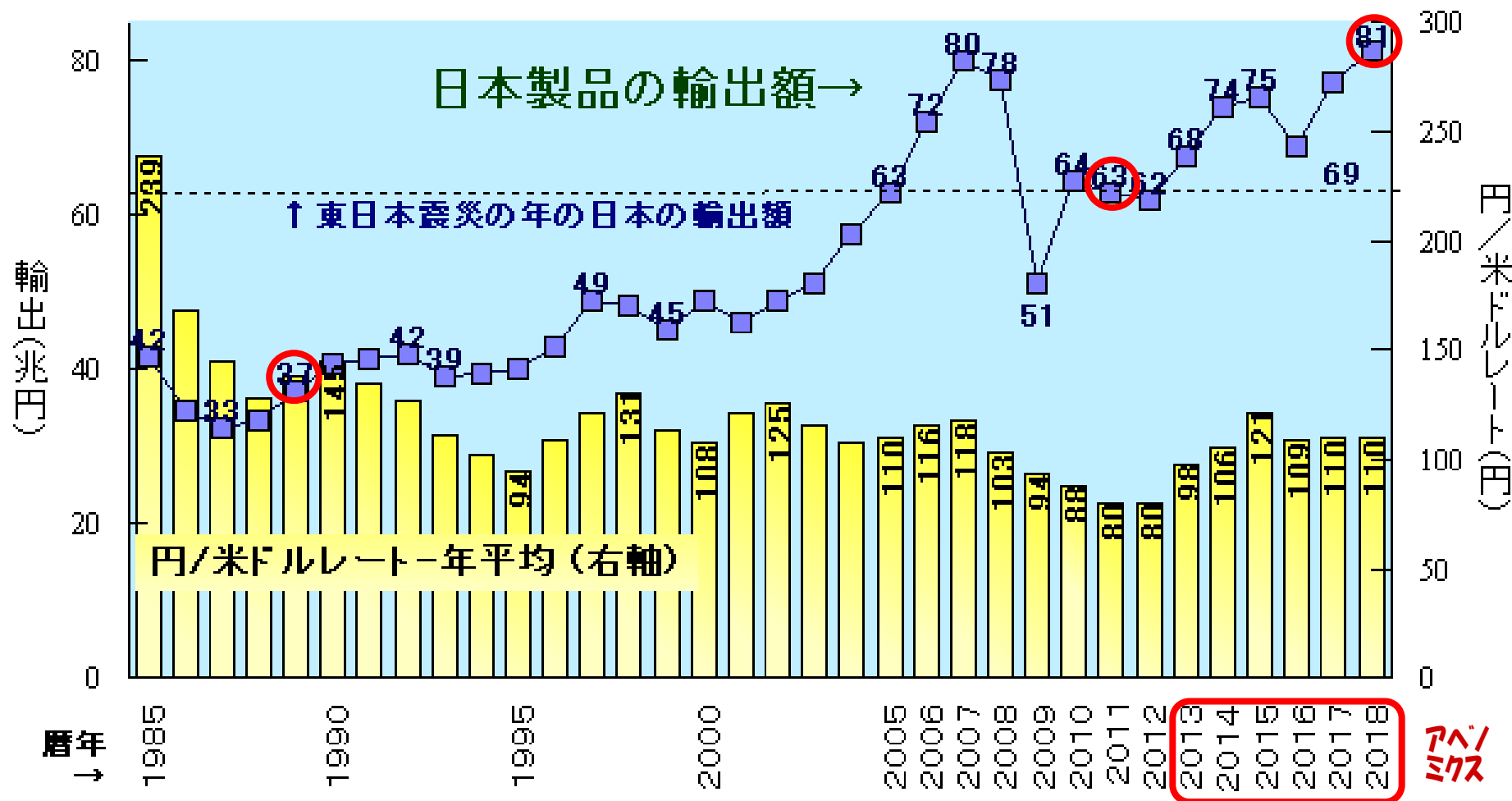
！ 売上は月坪4,000円台、収益は月坪1,500円

国際マネー競争に勝ち続ける日本

日本の輸出は20年前に比べ6割増

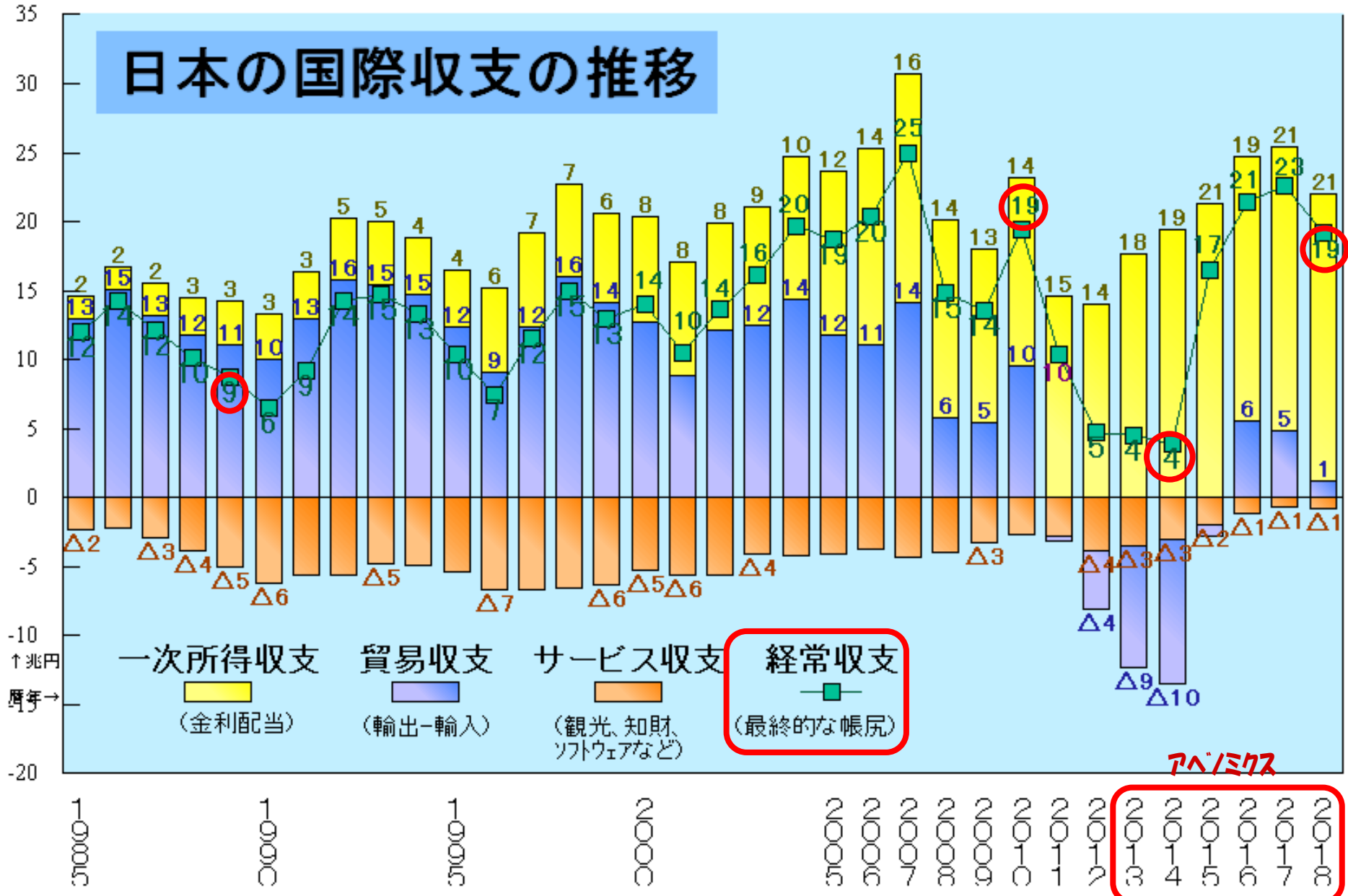
円高/円安と日本の輸出

輸出額:財務省「国際収支状況」



バブル期の倍以上外貨を稼ぐ日本

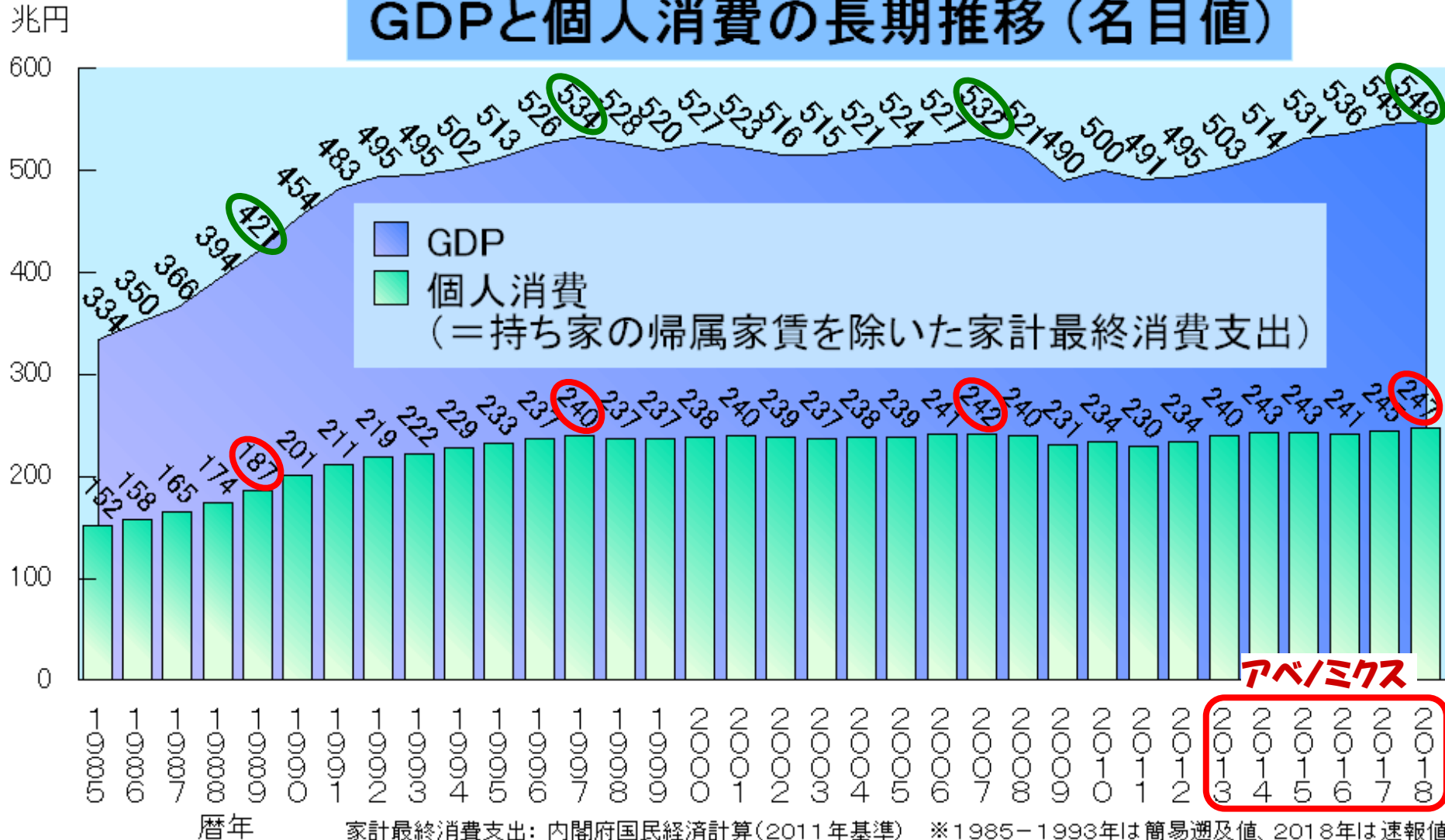
日本の国際収支の推移



なのに日本の内需は全く横ばい

そのために、GDPも横ばい

GDPと個人消費の長期推移（名目値）



暦年

家計最終消費支出：内閣府国民経済計算(2011年基準)

GDP：内閣府国民経済計算(2011年基準)

※1985-1993年は簡易遡及値、2018年は速報値

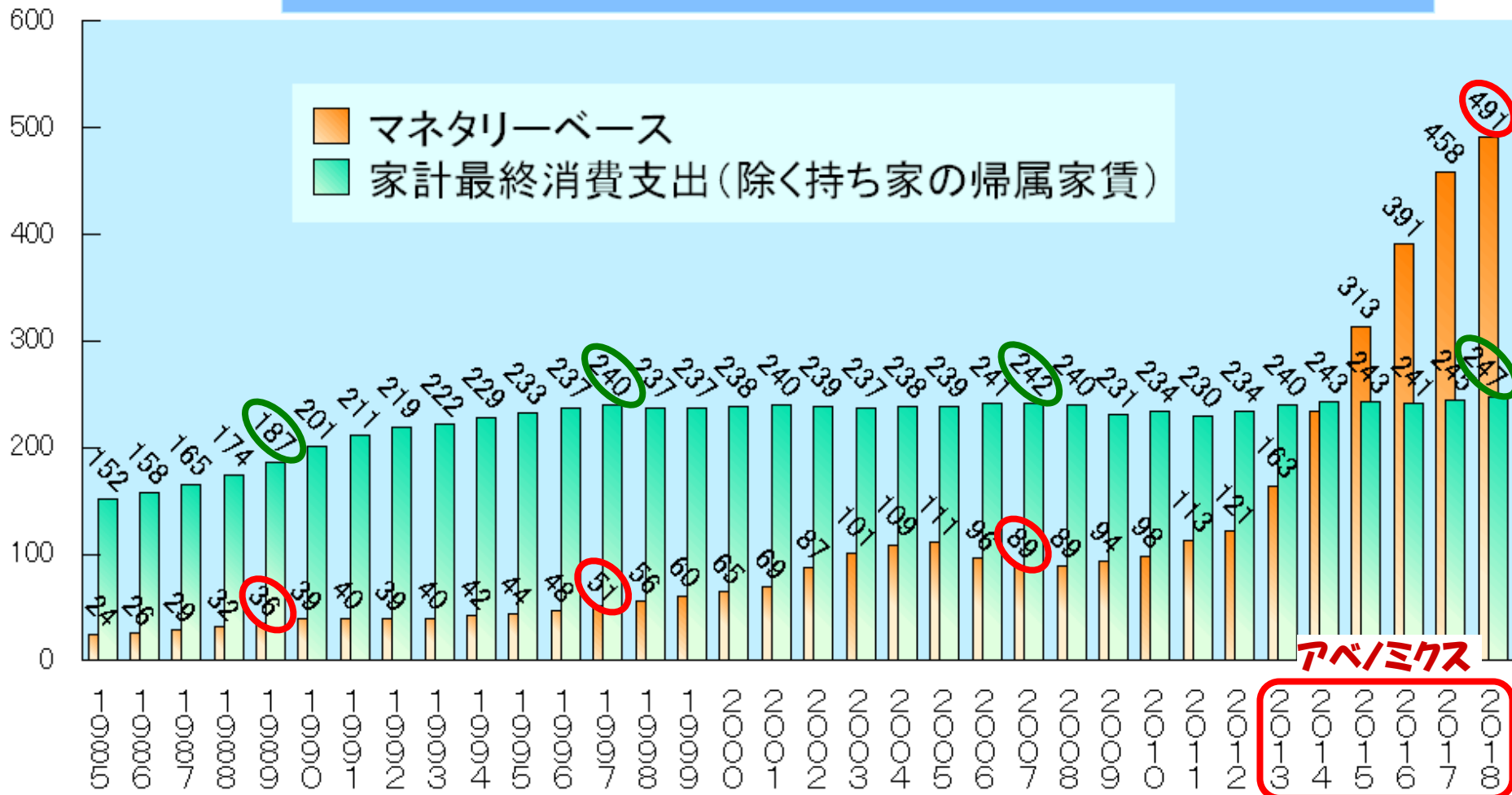
※1985-1993年は簡易遡及値、2018年は速報値

「異次元の金融緩和」に効果なし

通貨供給量増減率と内需の増減率は、R2乗=0.0で無関係

個人消費と通貨供給量の長期推移（名目値）

兆円



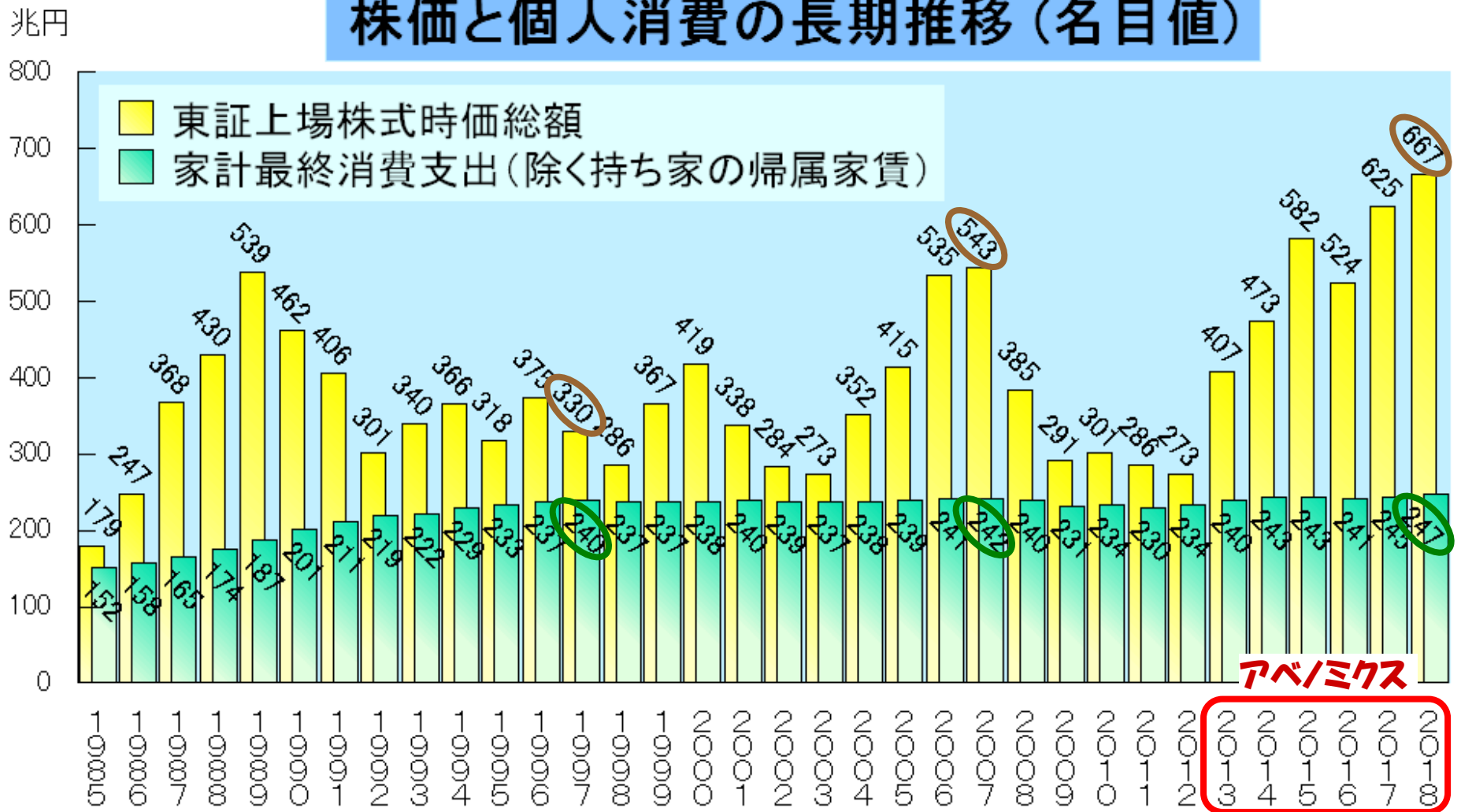
家計最終消費支出：内閣府国民経済計算(2011年基準)

※1985-1993年は簡易遡及値、2018年は速報値
マネタリーベース：日本銀行統計より作成、各月末平均

株価が上がっても消費は全く増えず

株価増減率と個人消費増減率は、R2乗=0.0で無関係

株価と個人消費の長期推移 (名目値)

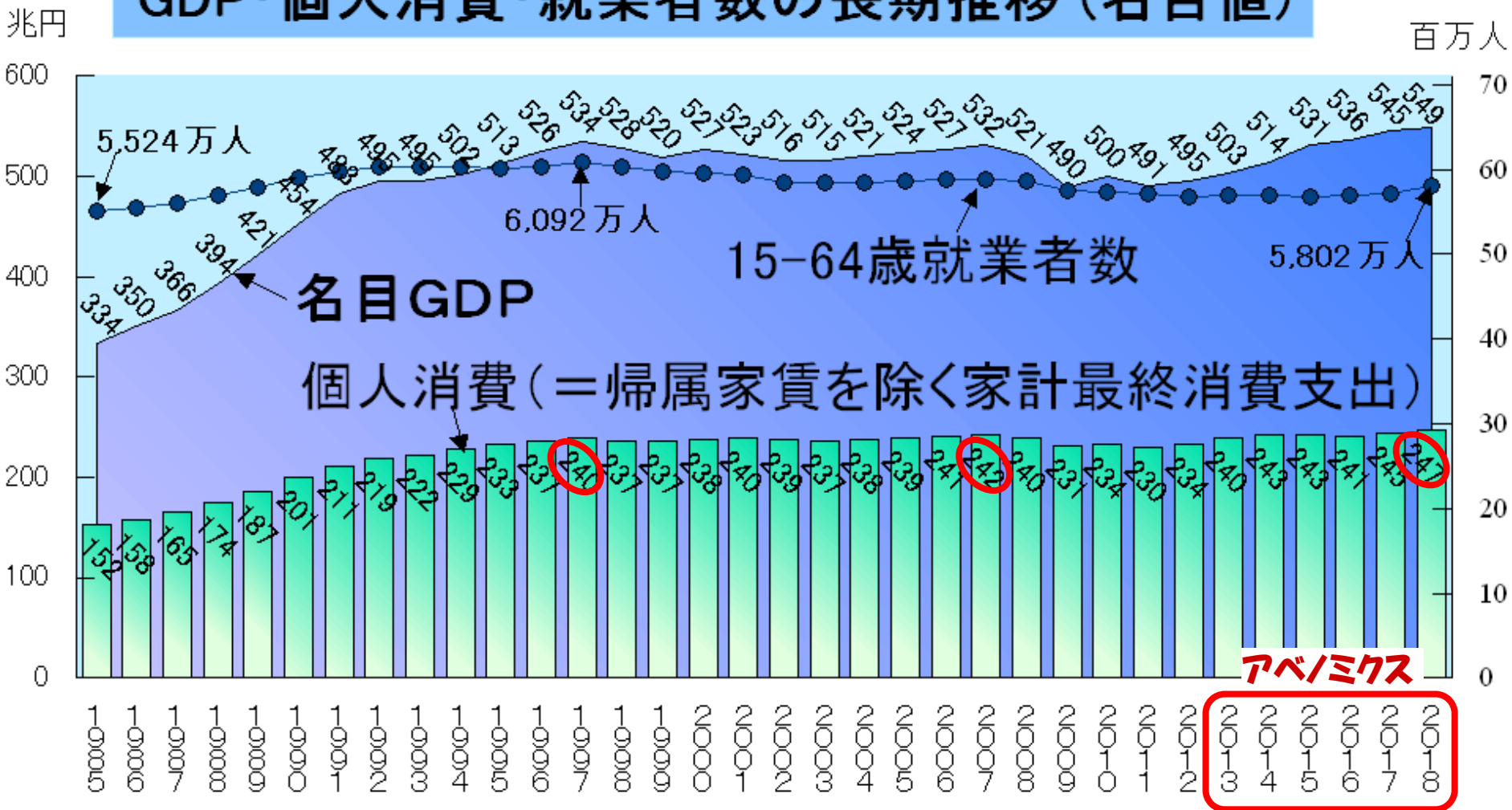


家計最終消費支出: 内閣府国民経済計算(2011年基準) ※1985-1993年は簡易遡及値、2018年は速報値
 株式時価総額: 日本取引所グループ統計(新興市場含む全上場市場の合計)より作成、各月末平均

経済停滞の背景に就業者数の横ばい

15-64歳就業者数の横ばいの原因は多年の少子化

GDP・個人消費・就業者数の長期推移（名目値）



暦年

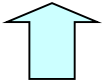
GDP/個人消費：内閣府国民経済計算(2011年基準) ※1985-1993年は簡易遡及値、2018年は速報値
 就業者数：総務省労働力調査(各年の毎月の現数時の平均値、非正規含む、在日外国人含む)

日本でいま起きていること

2014年正月→2019年正月 住民票基準、居住外国人含む

総人口: 2014.1.1 → 2019.1.1 Δ 99万人

日本は非常にゆっくりと人口減少に転じた



64歳以下人口は、このままだと100年でゼロ!になる、急速なペースで減っている...

0-14歳人口の増減:

↓絶対数

↓増減

2014年 1,667万人 → 19年

1,576万人

Δ 91万人

Δ 5%

15-64歳人口の増減:

↓絶対数

↓増減

2014年 8,005万人 → 19年

万人

人

65歳以上の人口:

↓絶対数

↓増減

2014年 3,172万人 → 19年

万人

人

↑その中の75歳以上の人口:

↓絶対数

↓増減

2014年 1,537万人 → 19年

万人

人

日本では、**15歳から64歳までの人口**が急激に減少していること

2014年

含む

なぜ日本の 15～64歳は急減したのか？

最近5年間に

557万人が15歳を超え、
15～64歳が差し引き9万人流出/死亡し、
903万人が65歳を超えた。

新入生557万人－転校生9万人
－卒業生903万人で
355万人の減少…

減

人

↑その中の7割は
2014年1,537万人

首都圏一都三県でいま起きていること

2014年正月→2019年正月 住民票基準、居住外国人含む

総人口: 2014.1.1 → 2019.1.1 +78万人

全国各地から15~64歳が差し引き70万人も流入し、一人勝ちで人口増加 ↑

実は首都圏で増えているのは75歳以上だけで、74歳以下はもう減少に転じている!

0-14歳人口の増減:	↓絶対数	↓増減	
2014年 449万人→19年	441万人	△8万人	△2%
15-64歳人口の増減:	↓絶対数	↓増減	
2014年 2,335万人→19年	万人	人	
65歳以上の人口:	↓絶対数	↓増減	
2014年 799万人→19年	万人	人	
↑その中の75歳以上の人口:	↓絶対数	↓増減	
2014年 358万人→19年	万人	人	

2014年

国を含む

なぜ首都圏一都三県の 15～64歳は減ったのか？

最近5年間に

146万人が15歳を超え、
15～64歳が差し引き70万人流入したが、
229万人が65歳を超えた。

新入生146万人＋転校生70万人
－卒業生229万人で
13万人の減少…

↑その中の75%

減

2014年

358万人

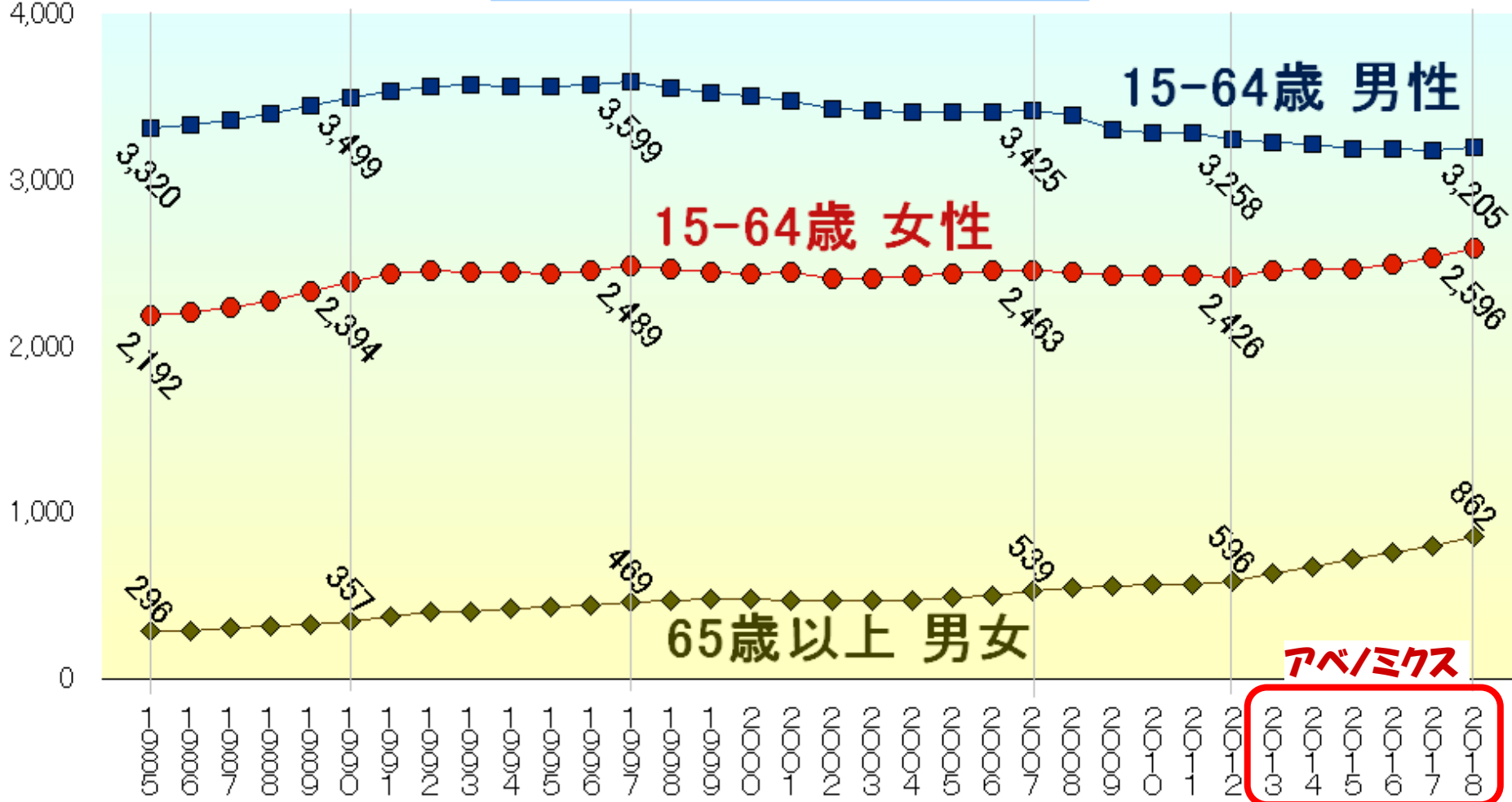
人

女性活躍と高齢者就労が支え

しかし団塊世代の最終退職で高齢者就労には限界

就業者数の長期推移

万人



就業者数：総務省労働力調査(各年の毎月の現数時の平均値、非正規含む、在日外国人含む)

日本では、現役世代の減少が生産ではなく消費を下げている

- ☆ 現役世代が減っているなので、労働者も減っている
 - ところが日本は世界で一番、工場の機械化・自動化が進んでいるので、労働者が減っても生産は落ちない
- ★ 現役世代が減っているなので、労働者も減っている
 - その分、企業が払う人件費の総額(雇用者報酬)も減る
 - その分、現役世代を顧客にした商品の売り上げも減る
 - ... 車、住宅、衣類、家具、食品、いろいろなものが頭打ちに
- ☆ それでも生産を落とさない商品は、値崩れしていく
 - そのことを「デフレ」と呼んで日銀のせいにする
- ★ 実は一部の高齢者には貯金がたくさんあるのだが、そうした人に限って死ぬまでお金を使おうとしない...

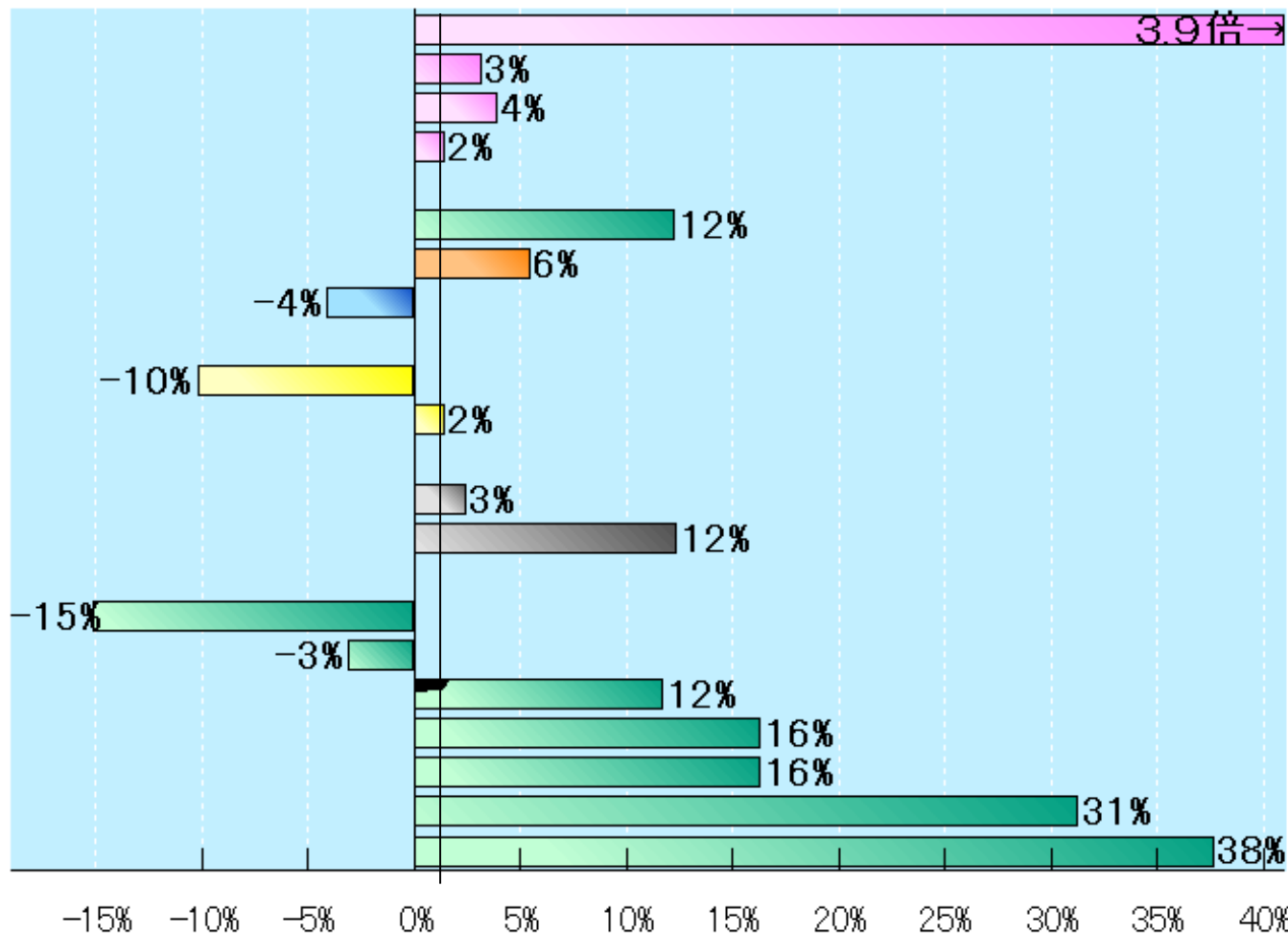
あなたの頭の“昭和度”をチェック！ 今伸びている産業は何なのか？

2007年～17年の増減率比較

農水省「生産農業所得統計」、内閣府「国民経済計算」
東京証券取引所統計、経済産業省「工業統計表」「商業統計」
観光庁統計、水産庁統計、財務省「国際収支統計」より、藻谷が試算

小売販売額(物販 2007-16)
個人消費(物販+飲食+サービス)

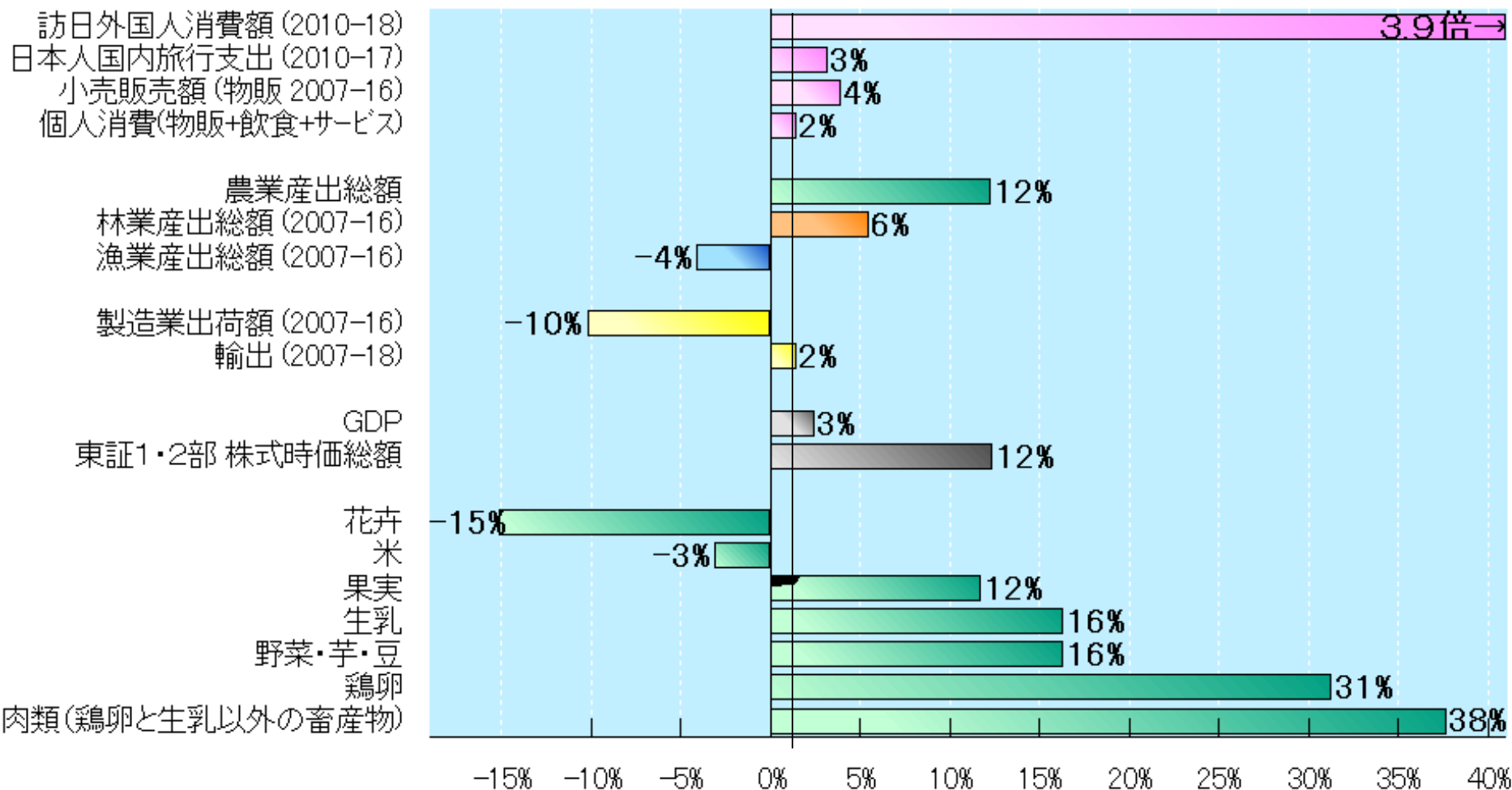
GDP
東証1・2部 株式時価総額



あなたの頭の“昭和度”をチェック！ 今伸びている産業は何なのか？

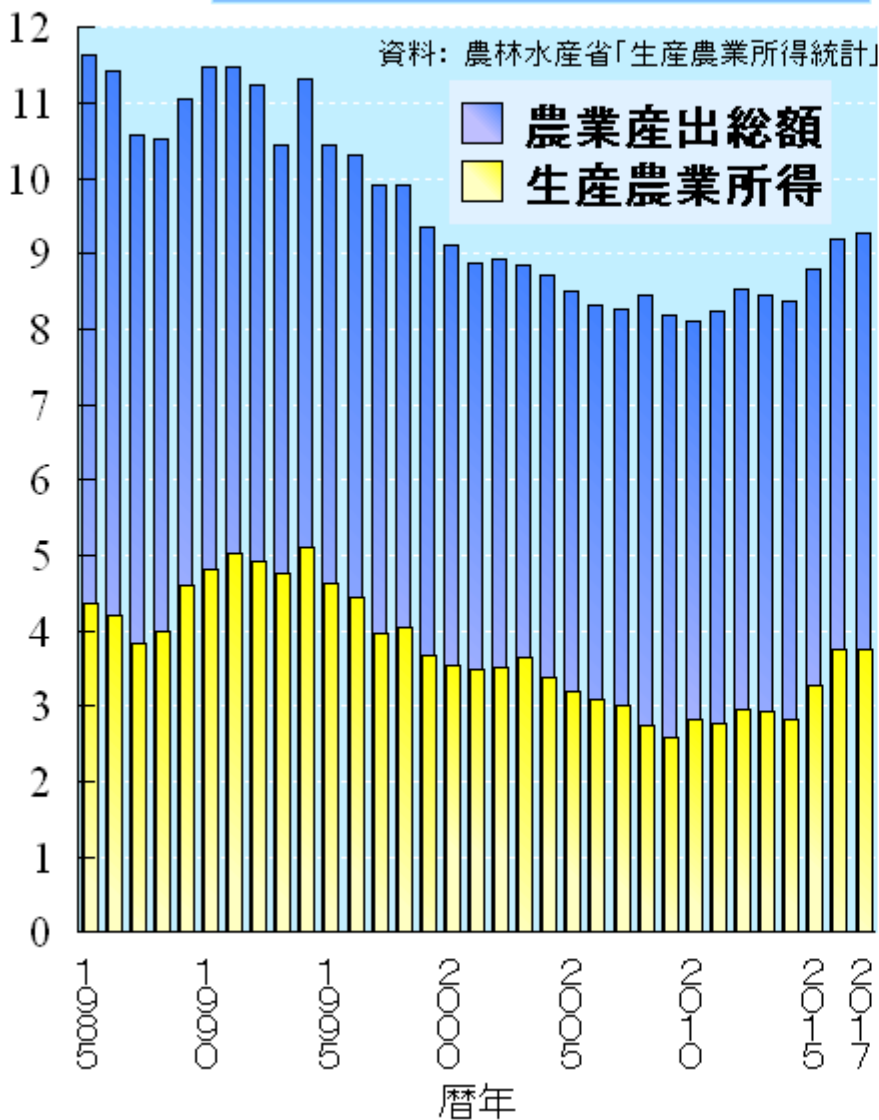
2007年～17年の増減率比較

農水省「生産農業所得統計」、内閣府「国民経済計算」
東京証券取引所統計、経済産業省「工業統計表」「商業統計」
観光庁統計、水産庁統計、財務省「国際収支統計」より、藻谷が試算



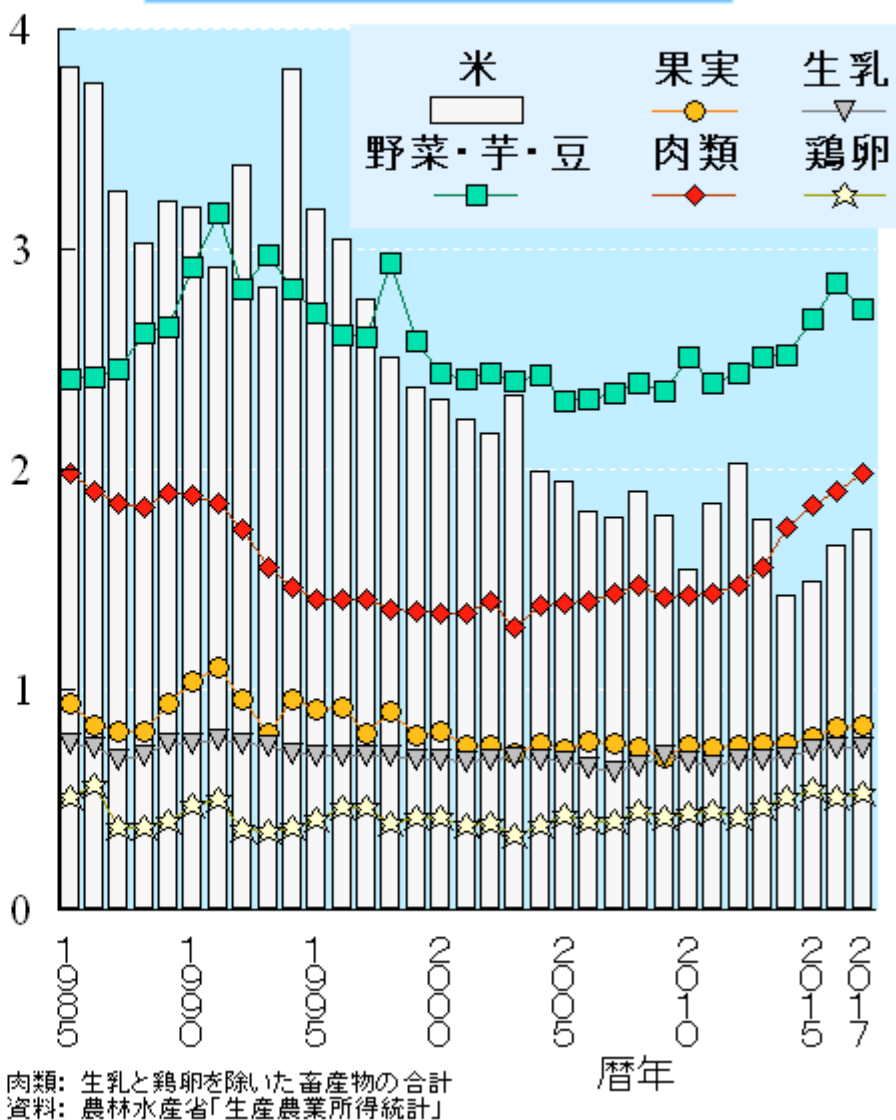
日本農業の生産規模

兆円



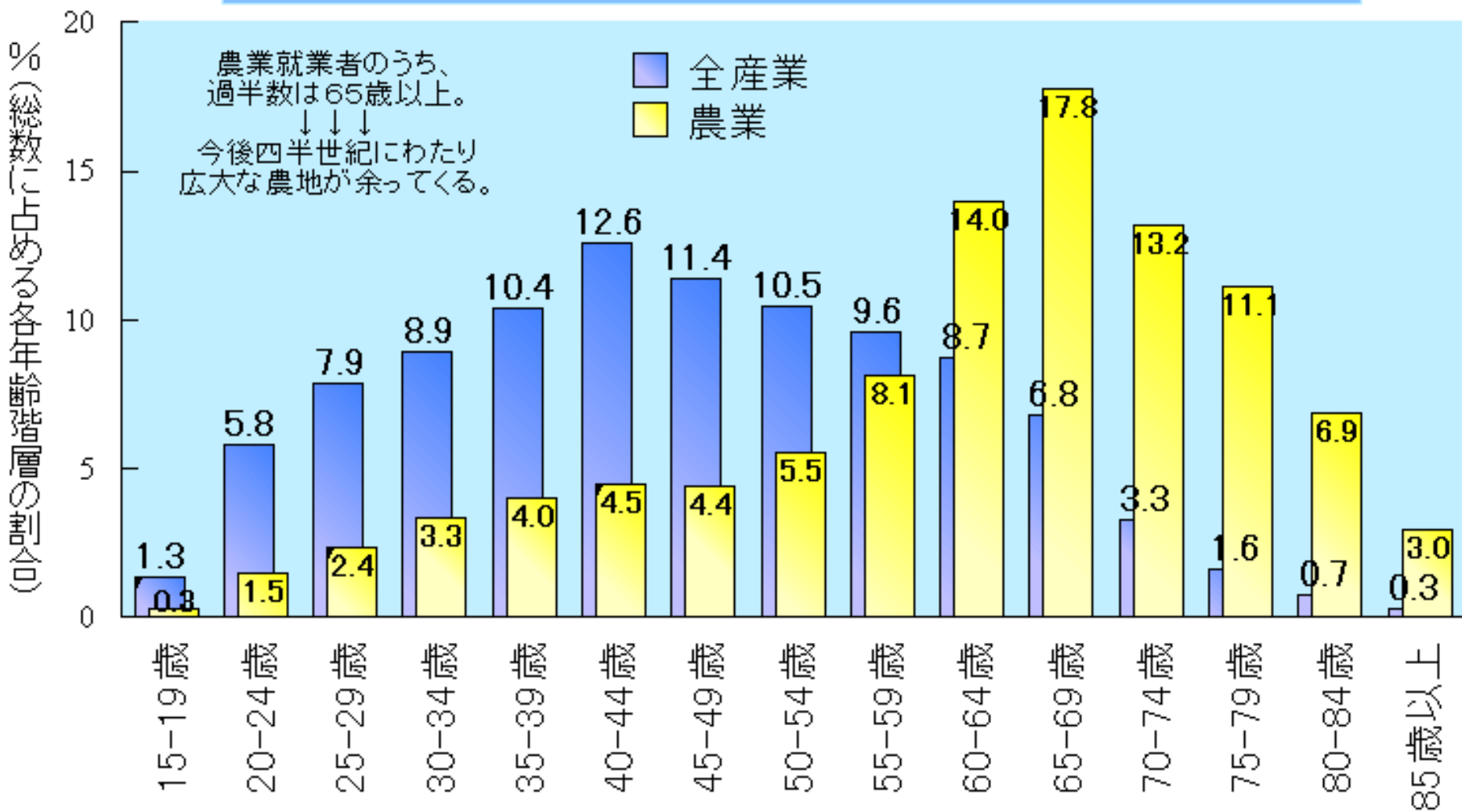
農業産出額の内訳

兆円



農業就業者の加齢→死去する今後 大量の遊休農地が発生する

農業就業者の年齢別分解 (2015年国勢調査)



企業にお勧めする農業参入戦略

× “無能”な農民や農協に替わって、効率的な農業を推進する

← 農民にも農協にも、本当の“生産のフロ”はいる

← コストダウンは幾ら進めても、海外品に勝てない

← 生産のフロ+マーケティングのフロを揃えよ

△ 高価格のブランド品に特化し、世界の高級食品市場を狙う

← ワインが典型だが、味だけでなく、味の程度に見合ったコストダウンができないと市場はない

← “中の上”という余り大きくはない市場に対応し
中小規模でも利益の出る工夫をすると儲かる

○ 国内市場に対応しつつ輸出もにらむ

← 今後の化石燃料価格上昇で、日本の優位は拡大
(日本の“地の利”を生かした農法は有利に)

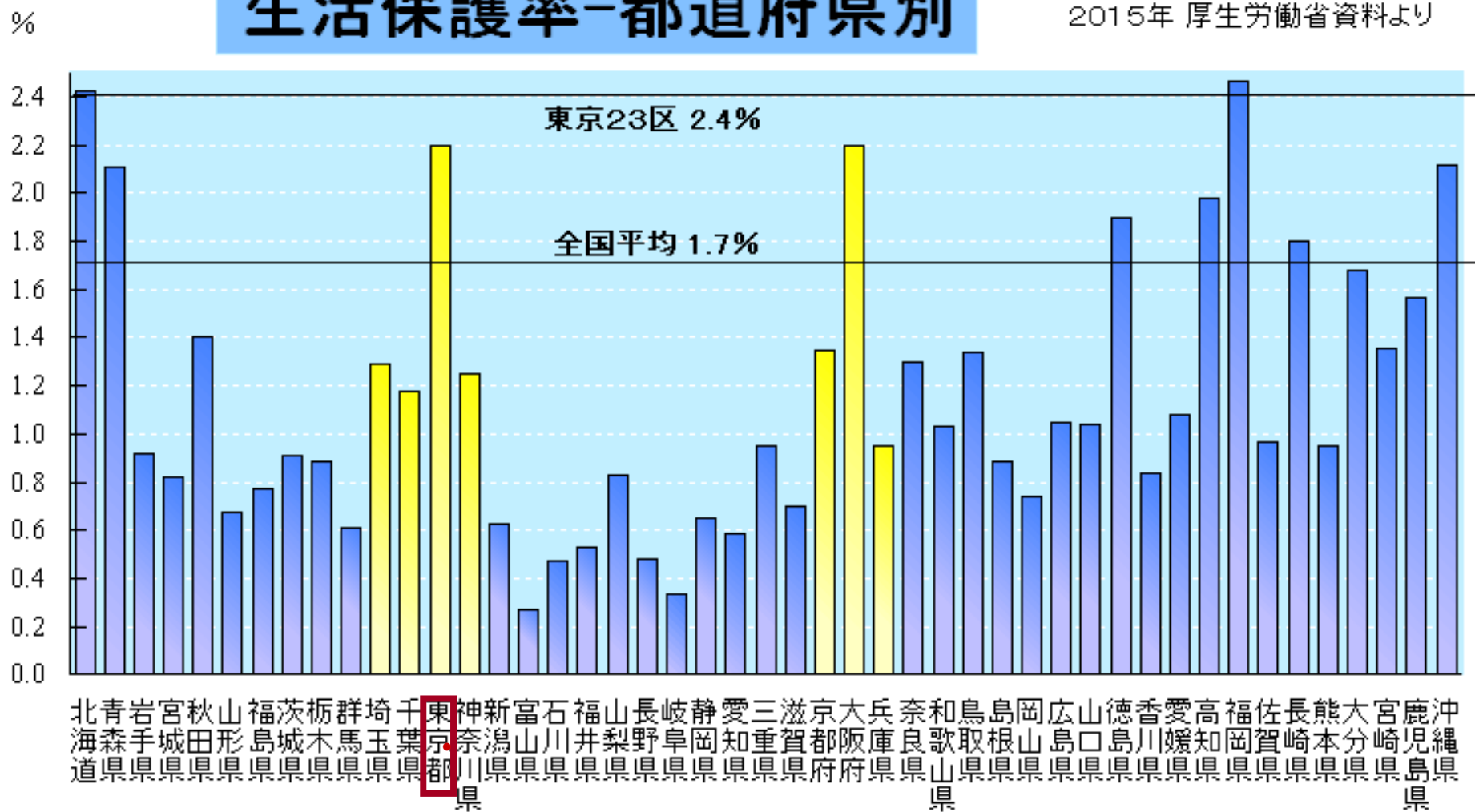
ご退職後の自給農業のススメ

- × 農業は、一部のやる気ある専業農家だけが担えばいい
 - 食べられる専業農家の軒数は極めて少ないので、多くの非効率な農地が放棄されてしまう。
 - 野獣の被害が増え、山崩れも急増する。
 - 農業は「儲け」だけではない！ 棚田耕作も重要。
- × 高齢者は年金でおとなしく暮らしておればよい
 - 今の60～70代の体力は昔の40～50代と同じ
 - 自給農業で年金不安は解消するし、健康も増進！
- × 農家は農業だけやればいい
 - 農地の横の里山も使い方次第で「宝の山」に！
 - まずは雑木林を薪山として使うことを再開しよう
 - 薪ボイラ、薪ストーブの技術革新を体感しよう！

地方は貧乏 というのは本当か？

生活保護率-都道府県別

2015年 厚生労働省資料より



エネルギー源でみた人類史五段階

① 狩猟採集時代 [石器時代～]

② 農耕時代 [弥生時代～]

- ← 太陽光を穀物に変え貯蔵するという技術革新で人口急増
- 貯蔵した穀物や農地を巡って戦争が起きるようになった

③ 化石燃料前期-工業時代 [戦後～]

- ← 化石燃料=太古の太陽光の濃縮物 で肉体労働を代替
- 人口が激増、しかしエネルギーは足りており戦争は無用に
- 農耕従事者が激減、都会で書類を書く無産階級が激増

④ 化石燃料後期-IT時代 [21世紀～]

- ← 頭脳労働もIT化され、生産に要する労働力が激減へ
- 生産ではなく消費がボトルネック化し、“経済成長”が終焉

⑤ 再生可能エネルギー時代 [平成時終盤～]

- ← 太陽光や地熱を小規模で高効率利用する技術が深化
- 人口密度の低い田舎で“部分自給”する生活が有利に